

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1292600192		
法人名	社会福祉法人愛生会		
事業所名	グループホームなごみ (こもれび)		
所在地	千葉県八千代市緑が丘2-17-1		
自己評価作成日	平成28年7月24日	評価結果市町村受理日	平成28年9月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成28年8月30日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

併設の小規模多機能居宅介護施設と合同でレクリエーションやボランティアの受け入れを行い、大勢の方と触れ合える機会を多く設けています。今年は庭できゅうりやトマトの栽培を行い、収穫まで一緒に楽しみました。他にも編み物などそれぞれの趣味を活かした、楽しみの持てる生活実現に努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

八千代緑が丘駅から徒歩12.3分の所に立地し、訪れるのに便利です。  
 2年前の開業に合わせ介護施設専用建てられた施設である為、全体的にゆったりとした作りで、居室は全室南向き、共用施設もゆったりとした造りで明るく清潔感があります。  
 小規模多機能型居宅介護施設と併設であるため、夜間は3人の夜勤職員が居て、様々な事態に対処しやすいう事や、ボランティアの受け入れも一緒に行なっておりデイサービスに来る人達との交流等のメリットがある事、昼食は近くの特養施設からの配送を受けるので職員の調理負担が少ない事等、複合施設の良さがあります。  
 開設後2年余り、その間職員の入れ替わりが激しい時もありましたが、ようやく落ち着いて来て、今後サービスの質も一層向上するものと思われませんが、既に、利用者家族のアンケートでは職員の対応ぶりを評価する声が多く出ています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600192		
法人名	社会福祉法人愛生会		
事業所名	グループホームなごみ (ひだまり)		
所在地	千葉県八千代市緑が丘2-17-1		
自己評価作成日	平成28年7月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	平成28年8月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (こもれび)	外部評価 (こもれび + ひだまり 全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念に付け加えたもので、毎朝の朝礼時に唱和している。	運営法人である社会福祉法人愛生会の事業領域として「地域介護の助っ人業」を第一に掲げ、ホーム自身の事業目的と共にまとめて施設内に掲示し、毎朝礼で唱和し、職員への周知徹底を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、イベントの告知などを町内回覧板で行った。ボランティア活動の受け入れも実施。	自治会に加入し、自治会の清掃活動等の行事に参加しています。運営推進会議には自治会長も出席してくれます。また、併設の小規模多機能型施設と共に、習字、絵手紙、日本舞踊、民謡等のボランティアを受け入れており、特に週1～2回も訪れる音楽では非常に盛り上がります。	今後も様々な形で地域の人達との交流を推し進めることが望まれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	取組は特に行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告に伴い、他施設や在宅であった事故についてのフィードバックをもらっている。	地域包括支援センター、自治会長、介護相談員、民生児童委員の参加を得て2ヶ月に一度のペースで会議を開催し、現況報告、事故報告に加え、ホームの抱える様々な課題について専門家からの意見を聞いてホーム運営の参考にしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センター職員の出席をお願いしている。また市の介護相談員の受け入れや、市役所担当者との電話相談を通じ協力関係を築いている。	運営推進会議に出席する地域包括支援センターとは緊密な関係を築き、また、市から介護相談員2名を派遣して貰う等、すでに市からの協力を得つつ施設運営の基盤強化を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドからの転落事故に伴い、一時的なベッド柵を設置した方に対しても、安全を見ながら撤去を行った。	職員は初任者研修等を通じて身体拘束について学んできてはいますが、禁止の対象となる具体的な行為を十分正しく理解出来ているとまでは言えません。	新人職員が増えている事もあり、身体拘束や虐待を含め、計画的に研修を進めることが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に「不適切なケアに関するアンケート」を実施し、意識強化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価（こもれび）	外部評価（こもれび + ひだまり 全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	取組は特に行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にとどまらず、疑問や不安への相談を随時行う体制をとっている。契約内容についても苦情は今のところは上がっていない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時はもとより、面会時などにも要望を聞く体制をとっている。8月に家族会を実施し、改めて意見を聴取できるようにする。	2名の介護相談員が定期的に訪れ利用者の話を聞いてくれるので、内部職員だけではなく、介護相談員の情報も運営に役立てています。家族については、訪問時や電話連絡時に聞く様になっていますが、最近開催した家族会には12家族が参加し、意見交換の良い機会となりました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談を通じて、意見を聞くように心がけている。	職員は普段の介護の過程で感じた事、思ったことについての意見交換はしやすい職場で有ると話しており、何事もそのまますぐ実現するわけにはいかないものの、職員の意見は尊重されていると見受けられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の面談を通じ勤務状況の把握・評価を行うとともに、課題や期待を伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を通じ育成できる体制を作り始めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八千代市グループホーム部会への参加が出来るよう、シフトへの配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価（こもれび）	外部評価（こもれび + ひだまり 全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	レクリエーションや家事参加について戸惑いのある方もいるが、任意であることを伝え、安心して入居できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	受診に付添いが負担になると感じている家族が多いが、基本的には不要と伝え、負担軽減をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が施設入居を望んでいないケースでは、在宅サービスの紹介・利用で在宅生活の継続を行った。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯など出来る事は行って頂き、職員の手助けとなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りなどの行事への参加を依頼し一緒に過ごせる時間を設けたり、外出に連れ出していただける支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の友人の面会受け入れや、かかりつけ医への受診継続などで、関係の継続ができるようにしている。	施設に入ると職員が笑顔で対応してくれます。面会する家族や知人が訪れやすい雰囲気である事が利用者アンケートからもわかります。利用者は家族と共に墓参りや食事に出かけるなど馴染みの関係継続を支援しています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の悪い人同士テーブルを離し、穏やかに過ごせる環境づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価（こもれび）	外部評価（こもれび + ひだまり 全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族へのフォローが必要なケースはないが、次の入所施設への情報提供などで支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出の希望への対応や、食べたいメニューを取り入れるなどし、意向の実現に努めている。	行きたいところを聞き、ドライブがてら公園に行ったり、食べたい物、やりたい事などできるだけ利用者の意向に沿うよう努めています。気持ちを伝えるのが難しい人については家族から得た情報や表情、行動から思いを汲み取るよう努力しています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所契約時やその後の面会などで、家族からの聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常記録を通じ能力などの把握と、職員間の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、ご家族からも要望を伺い、内容に取り入れるよう意識をしている。	入居時に本人・家族から聞き取りをして「お客様状況表」に記録します。これをもとに課題を導き出し介護計画を作成しています。半年ごとにカンファレンスをして計画を見直しています。	日々の支援は介護支援計画を軸に行うものであることを職員全員が意識するためにも、計画作成までの流れを理解し、モニタリングにかかわるなど、計画の位置づけを明確にする取り組みが期待されます
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を取り、情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取組は特に行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価（こもれび）	外部評価（こもれび + ひだまり 全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	取組は特に行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は月2回の嘱託医対応を基本としつつ、家族の要望によっては、他の専門医での対応もしている。	月2回の訪問診療により健康の管理をしています。もともとのかかりつけ医を受診する方もおり、その場合は主に家族が対応しています。整形外科や泌尿器科、精神科などの専門医の受診は職員による対応が多くなっています。今後の課題として精神科医とのパイプを強くすることを検討しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の在籍はなし。訪問看護師との連携体制を検討中。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院の受け入れに向けた連絡調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り実施に向けては、職員の意見を聞きながら人員体制や研修を通じ、体制を整えていく予定。	最近利用者の中で急に亡くなった方がおり、図らずも看取りを実践することになりました。利用者の重度化や終末期については家族にとっても気がかりなことであり、今後スムーズに対応できるよう体制作りを急いでいるところです。	今後ますます重度化への対応、看取りに対するホームへの期待が高まる傾向にあります。医療との連携体制の構築及び研修などによる職員の教育が求められています。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施。自治会の防災班との協力も話している。	昨年度は、通報・避難誘導訓練と夜間想定訓練の2回の訓練を行ないましたが、今年度は来月予定している段階です。消防設備は、スプリンクラーに加え消火栓・ホースを各フロアに2か所備える等万全を期しています。備蓄品は飲食料品の5日分程度に加え、ガスボンベ、ランタン等も備えています。	万一の災害発生について、全ての職員が、様々なケースについて取るべき行動の優先順位を身につけておく事、及び、備蓄品の内容及び数量を絶えず見直して行くことが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価（こもれび）	外部評価（こもれび + ひだまり 全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な言葉がけなどのアンケートを通じ、より高い質での対応を目指している。	利用者への言葉使いや対応は丁寧で、一人ひとりを尊重していることがわかります。今後は研修を重ねて職員のさらなるスキルアップを目指すことが期待されます	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～しましょう」ではなく「どっちが良いですか」という声掛けで自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やレク活動参加など、なるべくご本人の意思を確認しながら提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧レクを通じ、おしゃれを楽しんで頂けるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けなど無理なくできることを手伝って頂き一緒に作業を行っている。	ご飯、みそ汁以外のおかずは朝食・夕食は業者から配送を受け、昼食は近くの特養施設の厨房から届き、利用者は配下膳や食器洗いなど、できることを行っています。寿司パーティやリクエストメニューの日を設けたり、菜園でできたキュウリなどを収穫し食卓に上るなど、食を楽しむ工夫をしています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が進まない方にはゼリーを提供するなど、好みの形態で楽しんで頂けるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実践と合わせ、歯科衛生士の口腔ケアも取り入れている。		



自己	外部	項目	自己評価（こもれび）	外部評価（こもれび + ひだまり 全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握を通じ、なるべくトイレでの排泄が出来るよう努めている。	半数近くの方は排泄について自立していますが、排泄チェック表を用いて個々の状態を把握し、トイレ誘導や着脱など必要な介助をしています。そわそわする様子からトイレに行きたいというサインをキャッチするなど、観察し対応することで失禁の回数が減っています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と連携し下剤処方するだけでなく、水分摂取が多く進むよう工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	意思を尊重しながらも、清潔保持が出来るよう、週2回以上の入浴機会を設けている。	一日に2～4人の割合で一人週二日のペースで入浴しています。入浴を拒否する人には、言葉かけを工夫したり職員を変えるなど無理じいせずに入れるよう努めています。季節を感じるゆず湯やしょうぶ湯で入浴を楽しめる工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レク活動などへの参加を任意とし、疲れたら休むなど自由に過ごせるよう意識している。意思表示が難しい方には、状態観察を通じ提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書を閲覧できるようにし、不安なく服薬支援が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯ものたたみなどの家事や趣味活動など好きな活動が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩外出を実施。その他、ご家族による外出・外食がスムーズに行えるよう支援している。	年間行事として初詣や季節の花を見物に出かけています。買い物のついでに外食をすることもあります。天気の良い日には近隣を散歩したりしていますが、利用者が日々どのように過ごしているか等家族に知って貰う努力もますます必要になります。	

自己	外部	項目	自己評価（こもれび）	外部評価（こもれび + ひだまり 全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持の希望のある方は、紛失トラブルのない範囲の金額で所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話所持のご希望のある方には対応している。電話による会話希望の場合には、いつでも対応できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明が眩しすぎるという声に対し、電球を間引くなど希望に合わせた環境づくりを行っている。 また、作品の展示を行うことで満足感を高められるよう努めている。	介護専用の新築の建物であるだけに、諸設備が整っており、玄関、エレベーター、2か所の階段、廊下、居間兼食堂等の共用空間はゆったりとしており、明るく清潔感があります。特に気になる臭い等もありません。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置や着席位置の工夫により、快適な空間づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物の持ち込みや、備え付けのベッドを布団対応に変えるなどを通じ、自室を落ち着ける場所になるよう努めている。	各居室は、全室南向きで、空調・洗面台・ベッド・テレビが備え付けです。それほど広くはないものの、馴染みのタンスを持ち込んだり、写真や自分の作品の塗り絵を飾ったりと、それぞれ個性の有る部屋となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に個人名を掲示することで、自身の部屋の区別がつきやすいようにしている。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (ひだまり)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念に付け加えたもので、毎朝の朝礼時に唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、イベントの告知などを町内回覧板で行った。ボランティア活動の受け入れも実施。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	取組は特に行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告に伴い、他施設や在宅であった事故についてのフィードバックをしてもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センター職員の出席をお願いしている。また市の介護相談員の受け入れや、市役所担当者との電話相談を通じ協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	立ち上がりや転落等危険のある方に対しても、見守り強化の体制で拘束を排除している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に「不適切なケアに関するアンケート」を実施し、意識強化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	取組は特に行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にとどまらず、疑問や不安への相談を随時行う体制をとっている。契約内容についても苦情は今のところは上がっていない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時はもとより、面会時などにも要望を聞く体制をとっている。8月に家族会を実施し、改めて意見聴取できるようにする。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談を通じて、意見を聞くように心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の面談を通じ勤務状況の把握・評価を行うとともに、課題や期待を伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を通じ育成できる体制を作り始めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八千代市グループホーム部会への参加が出来るよう、シフトへの配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	レクリエーションや家事参加について戸惑いのある方もいるが、任意であることを伝え、安心して入居できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	受診に付添いが負担になると感じている家族が多いが、基本的には不要と伝え、負担軽減をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が施設入居を望んでいないケースでは、在宅サービスの紹介・利用で在宅生活の継続を行った。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯など出来る事は行って頂き、職員の手助けとなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りなどの行事への参加を依頼し一緒に過ごせる時間を設けたり、外出に連れ出していただける支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の友人の面会受け入れや、かかりつけ医への受診継続などで、関係の継続ができるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の悪い人同士テーブルを離し、穏やかに過ごせる環境づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族へのフォローが必要なケースはないが、次の入所施設への情報提供などで支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出の希望への対応や、食べたいメニューを取り入れるなどし、意向の実現に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所契約時やその後の面会などで、家族からの聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常記録を通じ能力などの把握と、職員間の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、ご家族からも要望を伺い、内容に取り入れるよう意識をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を取り、情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取組は特に行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	取組は特に行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は月2回の嘱託医対応を基本としつつ、家族の要望によっては、従来のかかりつけ医での対応もしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の在籍はなし。訪問看護師との連携体制を検討中。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院の受け入れに向けた連絡調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り実施に向けては、職員の意見を聞きながら人員体制や研修を通じ、体制を整えていく予定。急な看取り対応1件実施。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施。自治会の防災班との協力も話している。		

自己	外部	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な言葉がけなどのアンケートを通じ、より高い質での対応を目指している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～しましょう」ではなく「どっちが良いですか」という声掛けで自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やレク活動参加など、なるべくご本人の意思を確認しながら提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧レクを通じ、おしゃれを楽しんで頂けるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けなど無理なくできることを手伝って頂き一緒に作業を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が進まない方にはゼリーを提供するなど、好みの形態で楽しんで頂けるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実践と合わせ、歯科衛生士の口腔ケアも取り入れている。		



自己	外部	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握を通じ、なるべくトイレでの排泄が出来るよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と連携し下剤処方するだけでなく、水分摂取が多く進むよう工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	意思を尊重しながらも、清潔保持が出来るよう、週2回以上の入浴機会を設けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レク活動などへの参加を任意とし、疲れたら休むなど自由に過ごせるよう意識している。意思表示が難しい方には、状態観察を通じ提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書を閲覧できるようにし、不安なく服薬支援が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯ものたたみなどの家事や趣味活動などお好きな活動が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や散歩外出を実施。その他、ご家族による外出・外食がスムーズに行えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持の希望のある方は、紛失トラブルのない範囲の金額で所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話による会話希望の場合には、いつでも対応できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明が眩しすぎるという声に対し、電球を間引くなど希望に合わせた環境づくりを行っている。 また、作品の展示を行うことで満足感を高められるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置や着席位置の工夫により、快適な空間づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物の持ち込みで、自室を落ち着ける場所になるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に個人名を掲示することで、自身の部屋の区別がつきやすいようにしている。		